

心にゆとりをもって働くために いま、職場で困っていることをみんなで解決しよう

「第56回全国女性集会 in ふくしま」に135人が参加



「やりがいをもって、明るく元気に仕事を続けたい」そのために団結してがんばろう！（集会後の記念撮影で）

この秋、たたかえば前進する(佐藤委員長)

全医労第56回全国女性集会が10月11～12日、福島県飯坂温泉で開催され、全国から135人が参加しました。

女性集会は、山本さん（四国地方協女性部長）から「看護師業務にゆとりはまったくないが、この集会で討論を深め、何か一つでも今後の活動に活かせるものを持ち帰ってほしい」と開会あいさつがあり、北野さん（東北北陸地方協女性部長）と瀬島さん（中国地方協女性部長）の司会でスタートしました。

佐藤委員長はあいさつの冒頭、女性集会の開催地である福島県の東日本大震災福島原発事故に触れ、「7年7ヵ月経ったが198人の小児甲状腺がんおよび疑いが発表され、さらに政府は原発事故の汚染水を海に放水しようとしている。避難を余儀なくされた住民への対応も不十分だ。実態を嘘とごまかして

隠ぺいしようとしている。安倍首相は自ら他国へ原発のセールスをするありさまだ。また、沖縄辺野古基地建設を強行しようとしている。地方切り捨てで戦争できる国作りを進めようとしている。しかし、野党共闘では玉城デニー氏が知事選で勝利し、安倍政権にNOを突きつけた。福島で起きていること、沖縄で起きていることは一人ひとりの問題だ。この機に、もう一度平和であり続けること、一人ひとりが大切にされる国を作るために決意を新たにしたい」と述べ、「この秋のたたかいは、運動、要求をすれば必ず前進する。職場の見える化は、悩んでいる仲間を声をキャッチして具体的に要求し団体交渉を行い、その成果を仲間に伝えていくことだ。問題は組合の力で解決できる。要求闘争と結合した組織拡大をめざし、この集会でとりくみの意思統一をしたい」と強調しました。

半径5mのことに關心をもとう



おしどりマコ&ケンさん(女性集会初のトークライブ)

記念講演は「歯みがきするように社会のことを考えよう～福島原発事故の取材から見えてきたこと」と題した、おしどりマコさん・ケンさんによるトークライブでした。何も知らなかったお二人が東京電力の記者会見と福島原発のネットライブ放映をチェックする中で、様々な事実が明らかになったことをデータで示しながら、マコさんとケンさんの息のあった掛け合いトークが展開されました。

「事実は現場で起きており、何が問題か、国民・社会には忖度なく、事実を明らかにすることが大切だ」農民連の農業労働者のたたかいや原発労働者を守る労働組合のたたかきも紹介しながら、「おかしいと思ったことには声を上げていくこと。労働組合に結集することが大切だ」と述べ、ドイツの学生が過去の大戦の反省に立ち、教育と家庭において自分の意見をしっかり主張する姿に触れ、「アメリカに『キーキー音を立てる車輪は油を差してもらえろ』という『ことわざ』がある。黙っていても注目されない。声を上げて行こう」「社会のことに関わることは、自分が生活していく上で重要なこと。歯みがきをサボると虫歯になるように、自分が住んでいる社会のことを考えない、行動しないことは自分の人生に多大なしっぺ返しが来ると思う。だから、歯みがきするように社会のことを考えたい」と呼びかけ、深い共感を持って受け止められました。

基調報告のポイントは？

佐々木副委員長（女性部長）は、『働き方改革』で改悪・後退の内容もあるが、職場の勤務条件改善に向けて追い風になっている状況をどんどん活用して職場改善を実現しようと呼びかけました。

ポイントは「長時間労働是正を目的とした『36 協定』の見直し」「勤務間隔



佐々木副委員長

インターバル規制」「年次休暇 5 日間取得義務化」「勤務時間管理の徹底」などです。いま、職場で起きている様々な問題の根源には「人手不足」があります。「職場から増員要求を確立し、大幅増員を何としても実現しよう」と提起しました。

パワハラ根絶へ～八戸支部

東北地方協の 2 つの支部から教訓的な特別報告がありました。第 1 は「労働委員会の活用で団体交渉を実施が進んだこと」について、森越さん（八戸支部）から、「医師のパワハラ等の問題で、その事実が認定されたにも関わらず、何も対策しない当局に対し支部要求で団交を申し入れた。しかし『議題整理』でのりくりと不誠実な対応を繰り返す施設に対し、労働委員会へ『あっせん申請』をすると、要求はそのまま団体交渉が実施できた。ぜひ、全支部で活用してほしい」と報告がありました。



森越さん(八戸支部)

対話活動をすすめ組織拡大～福島支部

第 2 は「日常的な対話活動で組織拡大につながったこと」について、箱崎さん（福島支部）から報告がありました。冒頭、女性集会の福島開催のお礼と「福島は復興に向けて努力している。引き続きご支援をお願いしたい」とあいさつがあり、「組合員の減少で次々と負のスパイラルに陥ったが、このままではいけないと、『組合の見える化』を様々な支部での実践を参考にし、何ができるかを考え、ニュースの発行配布やレク企画など、できることから実践した。その結果、組合加入が徐々に進んだ。何もしなければ、何も始まらないどころか、後退してしまう。厳しい職場環境だからこそ『組合ここにあり』という姿、存在意義を仲間に見せて、仲間を増やそう」と呼びかけました。



箱崎さん(福島支部)

八雲闘争支援を訴え

その後の全体討論では、次々と職場実態の訴えや、とりくみ紹介の発言が続きました。最後に渡邊さん（八雲支部）から、八雲病院の廃止計画反対のたたかひの報告と『健康まつり』の成功に向けた協賛金の訴えがありました。（51,000 円集まりました！）

※ つづきは 341 号で報告します。